

令和2年度

東京都内特別養護老人ホーム入所(居)待機者に関する実態調査

【最終報告】

令和2年12月

東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会 制度検討委員会

1 はじめに—今回の調査の目的

東京都高齢者福祉施設協議会 制度検討委員会では、平成27年度より「東京都内特別養護老人ホーム入所(居)待機者に関する実態調査」を継続して実施している。今までの調査結果では、都内の特養の待機者が減少し続けている状況が確認され、特に市町村部では23区内と比べて減少率が高い。特別養護老人ホーム(以下、特養という)の入所要件が原則要介護3以上となったこと、所在地・近隣地域における施設整備の進展などの影響も明らかになった。

特養は介護のみならず、福祉の拠点、雇用の受け皿となっている。すなわち、特養は地域住民にとって、大切な社会資源である。利用者の確保、スムーズな入所、介護人材確保、一定の稼働率の維持など適切な運営が求められている。本調査では都内の特養の実態を継続的に調査、分析し、実態を把握する中で、高齢者施策に関する国、東京都の制度、政策、自治体の取り組みなどに対する要望、提言活動に資する資料をつくることを目的とする。

[要望・提言に向けた視点]

- (1) 待機者減少の実態把握
- (2) 待機者減少の要因と対策
- (3) 待機者減少と特養稼働率の低下の相関性
- (4) ショートステイ需要の後退の要因と対策

2 調査の設計

調査対象：東京都高齢者福祉施設協議会会員の特別養護老人ホーム504施設

調査期間：令和2年8月3日～8月31日

調査方法：ウェブサイト上での回答

回収結果：384施設（回収率76.19%）

回答結果の分類：地域特性を考慮するため、回答施設の所在地ごとに以下のとおり分類した。

【23区】23区

【多摩東部】清瀬市・東村山市・東久留米市・西東京市・小平市・武蔵野市・東大和市・武蔵村山市・立川市・昭島市・国分寺市・国立市・小金井市・府中市・三鷹市・調布市・狛江市・日野市・多摩市・稲城市・町田市

【多摩西部】奥多摩町・青梅市・羽村市・瑞穂町・檜原村・あきる野市・日の出町・福生市・八王子市

【島しょ】島嶼地域

3 集計結果の概要

(1) 基本情報

①回収率

	回答数	地域別割合	送付数	回収率
23区	206	53.65%	277	74.37%
多摩東部	97	25.26%	130	74.62%
多摩西部	77	20.05%	92	83.70%
島しょ	4	1.04%	5	80.00%
合計	384	100.00%	504	76.19%

●全体の回収率が76.19%となり、前回調査(76.32%)と同等の回収率となった。

②施設種別 [問I-4]

	従来型				ユニット型			一部ユニット型		
	回答総数	回答数	回答数に対する割合(%)	所在地別割合(%)	回答数	回答数に対する割合(%)	所在地別割合(%)	回答数	回答数に対する割合(%)	所在地別割合(%)
	382	239	62.57	—	123	32.20	—	20	5.23	—
23区	205	118	49.37	57.56	80	65.04	39.02	7	35.00	3.41
多摩東部	96	66	27.62	68.75	23	18.70	23.96	7	35.00	7.29
多摩西部	77	52	21.76	67.53	20	16.26	25.97	5	25.00	6.49
島しょ	4	3	1.25	75.00	0	0.00	0.00	1	5.00	25.00

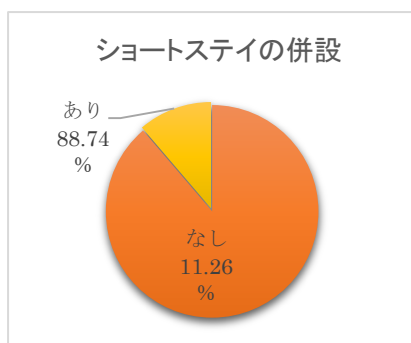
●回答施設の62.57%が「従来型」であり、ユニット型施設で最も多い地域は23区で65.04%の結果であった。

●地域ごとの「ユニット型」の回収状況(23区:39.02%、多摩東部:23.96%、多摩西部:25.97%)を比較すると依然として23区が最も高く、23区における特養の整備が進んでいる状況が伺える。

③特養定員数 [I-5] ×退所人数 [I-6]

	平成30年度(N366)			令和元年度(N373)		
	特養定員総数	退所人数総数	退所人数総数/特養定員総数	特養定員総数	退所人数総数	退所人数総数/特養定員総数
全体	33,128	8,595	25.94%	33,557	8,967	26.72%
23区	17,052	4,314	25.30%	17,323	4,564	26.35%
多摩東部	7,913	2,120	26.79%	8,191	2,257	27.55%
多摩西部	7,941	2,104	26.50%	7,821	2,082	26.62%
島しょ	222	57	25.68%	222	64	28.83%

④ショートステイの併設 [I -8]



	回答数	あり		なし	
		回答数	割合	回答数	割合
全体	382	339	88.74%	43	11.26%
23区	205	190	92.68%	15	7.32%
多摩東部	96	83	86.46%	13	13.54%
多摩西部	77	62	80.52%	15	19.48%
島しょ	4	4	100.00%	0	0.00%

⑤ショートステイの定員数

* [I -8] で「あり」と回答した 339 施設が母数 [I -9]

	回答数	定員数	
		合計	1施設あたり平均
全体	339	3,303	9
23区	190	2,105	11
多摩東部	83	765	9
多摩西部	62	390	6
島しょ	4	43	10

(2) 入所（居）申請及び待機者の状況

①入所（居）待機者のカウント方法 [I-10]

	回答数	申込者の人数と同じ		入所(居)判定基準等をクリアした入所(居)可能な方		その他	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
全体	384	276	71.88%	95	24.74%	13	3.39%
23区	206	133	64.56%	62	30.10%	11	5.34%
多摩東部	97	81	83.51%	15	15.46%	1	1.03%
多摩西部	77	61	79.22%	15	19.48%	1	1.30%
島しょ	4	1	25.00%	3	75.00%	0	0.00%

●待機者のカウント方法について調査をした結果、全体で71.88%の施設が申込者人数を待機者としていることが分かった。しかし、「入所(居)判定基準等をクリアした入所(居)の可能な方」の割合が前回調査(22.19%)に対し2.55%上昇しており、各施設での入所(居)待機者のあり方を見直していることが伺える。

②入所（居）申込の窓口および入所（居）待機者名簿の管理 [問Ⅱ-1・Ⅱ-2]

[申込窓口]

	回答数	各施設		自治体		各施設と自治体		その他	
		回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
23区	206	99	48.06%	71	34.47%	34	16.50%	2	0.97%
多摩東部	97	81	83.51%	2	2.06%	13	13.40%	1	1.03%
多摩西部	77	55	71.43%	0	0.00%	20	25.97%	2	2.60%
島しょ	4	4	100.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
合計	384	239		73		67		5	

[名簿管理]

	回答数	各施設		自治体		各施設と自治体		その他	
		回答	割合	回答	割合	回答	割合	回答	割合
23区	206	38	18.45%	60	29.13%	107	51.94%	1	0.49%
多摩東部	97	63	64.95%	1	1.03%	31	31.96%	2	2.06%
多摩西部	77	46	59.74%	0	0.00%	29	37.66%	2	2.60%
島しょ	4	4	100.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
合計	263	151		61		167		5	

●申込窓口は、全地域で「各施設」が最も多いが、名簿管理では、23区は「施設と自治体」が最も多く、「自治体」と「各施設と自治体」を合わせると81.07%の結果となった。多摩東部、西部地域では「各施設」が最も多く、23区と多摩地域での名簿管理について、過去の調査と比較しても変化は見られなかった。

③自治体から名簿が送られてくる頻度

[Ⅱ-2] で「自治体」または「各施設と自治体」と回答した施設 [問Ⅱ-3]

	1ヶ月		2～3ヶ月		半年		1年		随時		特に定められていない		その他	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
	72	43.64%	31	18.78%	26	15.76%	7	4.24%	5	3.03%	5	3.03%	19	11.52%
23区	53	50.00%	23	21.69%	16	15.09%	2	1.89%	1	0.94%	2	1.89%	9	8.49%
多摩東部	9	30.00%	5	16.67%	4	13.33%	5	16.67%	1	3.33%	1	3.33%	5	16.67%
多摩西部	10	34.48%	3	10.35%	6	20.69%	0	0.00%	3	10.34%	2	6.90%	5	17.24%
島しょ	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%

●名簿が送られてくる頻度は、すべての地域で1ヶ月単位が最も多い結果となった。

また、半年、1年と回答した施設も全体で20%あるため、入所（居）申込者のためにも自治体からの発信頻度を短くする必要があると考えられる。

④望ましいと思う、待機者名簿の管理や更新方法はどれですか。 [問Ⅱ-4]

	区市町村管理		各施設管理		その他		合計
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数
23区	139	67.48%	52	25.24%	13	6.31%	206
多摩東部	25	25.77%	63	64.95%	8	8.25%	97
多摩西部	16	20.78%	56	72.73%	3	3.90%	77
島しょ	0	0.00%	4	100.00%	0	0.00%	4

●23区では67.48%の施設が「区市町村管理」が最も多く、多摩東部では64.95%、多摩西部では72.73%が「各施設管理」が望ましいと回答しており、現在の名簿管理状況を継続した形が望ましいと考えられている結果となった。

⑤過去3年における名簿上の入所（居）待機者は何人か [Ⅱ-5]

	回答数	平成30年3月31日現在		回答数	平成31年3月31日現在		回答数	令和2年3月31日現在		
		合計	1施設あたりの平均		合計	1施設あたりの平均		合計	1施設あたりの平均	
23区	従来型	100	30,138	301.38	106	31,423	296.44	110	31,508	286.44
	ユニット型	64	11,858	185.28	69	12,065	174.86	73	12,418	170.11
	一部ユニット型	5	1,177	235.40	5	1,059	211.80	6	1,378	229.67
多摩東部	従来型	61	16,526	270.92	61	16,971	278.21	65	19,161	294.78
	ユニット型	19	3,516	185.05	21	4,069	193.76	23	4,229	183.87
	一部ユニット型	7	1,564	223.43	7	1,361	194.43	7	1,641	234.43
多摩西部	従来型	51	7,715	151.27	51	8,036	157.57	51	7,722	151.41
	ユニット型	18	1,667	92.61	19	1,775	93.42	19	1,910	100.53
	一部ユニット型	5	513	102.60	5	531	106.20	5	499	99.80
島しょ	従来型	3	38	12.67	3	36	12.00	3	34	11.33
	一部ユニット型	1	19	19.00	1	19	19.00	1	18	18.00

⑥施設所在地の自治体以外からの申込者数(令和2年3月31日現在)[Ⅱ-6]

	他の道府県からの申込者数		都内の他の自治体からの申込者数	
	回答数	平均(人)	回答数	平均(人)
	361	10.5	362	36.3
23区	187	6.8	190	15.1
多摩東部	94	19.5	92	58.7
多摩西部	76	9.0	76	64.1
島しょ	4	0.0	4	0.0

- 「他の道府県からの申込者数」は多摩東部が最も多く、「都内の他の自治体からの申込者数」は多摩西部が最も多い結果となった。

⑦入所(居)待機者の中で、入居に至らない理由は何ですか。[Ⅱ-9]

	※複数回答	回答数	%
全 体		377	100.0
医療依存度の高い方		357	93.7
生活保護受給者		77	20.2
精神疾患のある方		107	28.1
身元引受人等の入所(居)後の事務手続などが出来ない方		171	44.9
低所得などでユニット型に入所(居)できない方		92	24.1
その他		51	13.4

- 「医療依存度が高い方」が93.7%と最も多い結果となり、上記の対象者は入所(居)待機者として名簿に残り続けると考えられる。

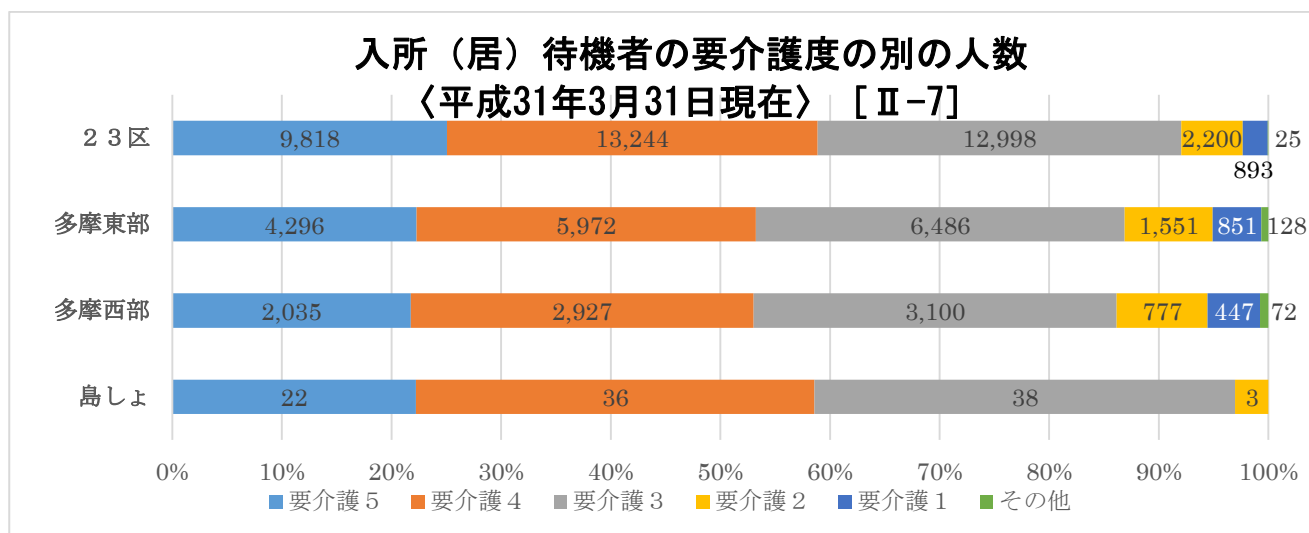
⑧待機者に入所(居)の案内をした際に断られた平均人数[Ⅱ-17]

	平成30年度		令和元年度	
	回答数	平均	回答数	平均
全体	324	10.08	337	11.07
23区	172	10.58	182	11.37
多摩東部	80	8.28	81	9.74
多摩西部	68	11.43	70	12.34
島しょ	4	1.75	4	1.75

- 島しょを除き「入所(居)の案内をした際に断られた」平均人数が増加傾向にあり、多摩西部が12.34人と最も多い結果となった。

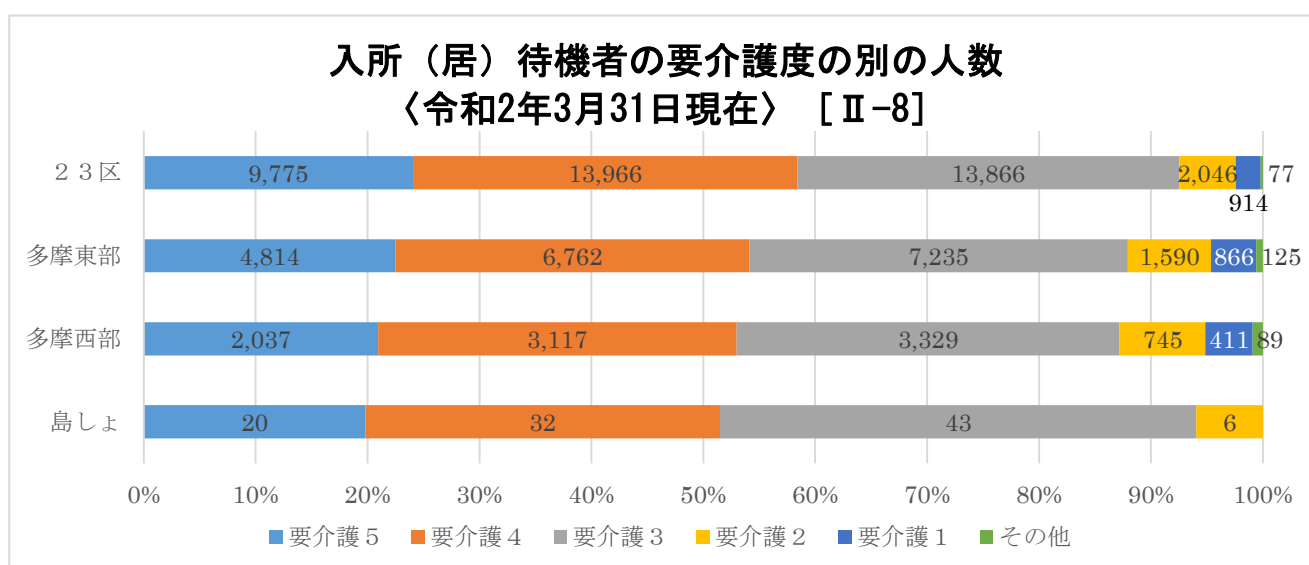
⑨-1 入所（居）待機者の要介護度別人数（平成31年3月31日現在）〔Ⅱ-7〕

	要介護5		要介護4		要介護3		要介護2		要介護1		その他	
	回答数	人数	回答数	人数	回答数	人数	回答数	人数	回答数	人数	回答数	人数
23区	175	9,818	175	13,244	175	12,998	173	2,200	170	893	129	25
多摩東部	84	4,296	84	5,972	84	6,486	83	1,551	82	851	58	128
多摩西部	74	2,035	74	2,927	74	3,100	73	777	72	447	49	72
島しょ	4	22	4	36	4	38	4	3	3	0	3	0



⑨-2 入所（居）待機者の要介護度別人数（令和2年3月31日現在）〔Ⅱ-8〕

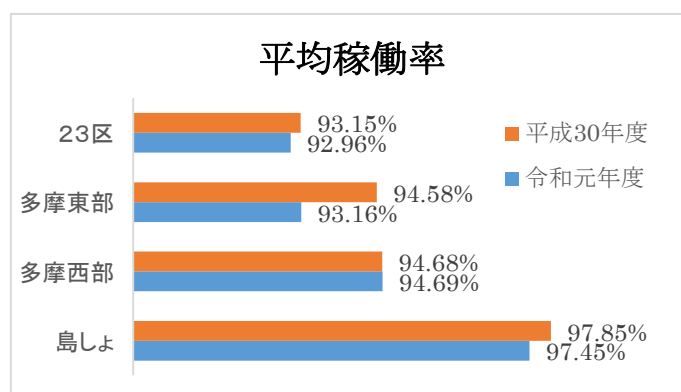
	要介護5		要介護4		要介護3		要介護2		要介護1		その他	
	回答数	人数	回答数	人数	回答数	人数	回答数	人数	回答数	人数	回答数	人数
23区	186	9,775	186	13,966	186	13,866	181	2,046	178	914	133	77
多摩東部	89	4,814	89	6,762	89	7,235	88	1,590	88	866	57	125
多摩西部	75	2,037	75	3,117	75	3,329	74	745	74	411	53	89
島しょ	4	20	4	32	4	43	3	6	3	0	3	0



(3) 施設運営の状況 [特養]

①稼働率（ショートステイは含まない）[問Ⅰ-7]

	平成30年度		令和元年度	
	回答数	平均	回答数	平均
全体	367	93.87%	375	93.41%
23区	197	93.15%	202	92.96%
多摩東部	90	94.58%	94	93.16%
多摩西部	76	94.68%	75	94.69%
島しょ	4	97.85%	4	97.45%



●平成30年度と比較し令和元年度の稼働率は多摩西部を除き、全区域で低下している。多摩西部のみ同水準の稼働率となった。

②-1 特養の稼働率が低下した理由 [問Ⅱ-10] (全体集計)

		※複数回答	回答数	%
全 体			384	—
1	入所(居)待機者の減少		149	38.8
2	入所(居)に至るまでの期間が延びた		169	44.0
3	介護職員・看護職員の不足		61	15.9
4	入院者・退所者の増加		233	60.7
5	新型コロナウイルスの影響		187	48.7
6	その他		20	5.2

②-2 特養の稼働率が低下した理由 [問Ⅱ-10] (地域別集計)

		23区		多摩東部		多摩西部	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	入所(居)待機者の減少	70	15.95	44	20.09	35	22.73
2	入所(居)に至るまでの期間が延びた	97	22.10	45	20.55	26	16.88
3	介護職員・看護職員の不足	37	8.43	17	7.76	5	3.25
4	入院者・退所者の増加	123	28.02	61	27.85	47	30.52
5	新型コロナウイルスの影響	99	22.55	48	21.92	38	24.68
6	その他	13	2.96	4	1.83	3	1.95

●全ての地域で「入院者・退所者増」が最も多く、次に「新型コロナウイルスの影響」が多いが、「入所(居)に至るまでの期間が延びた」に包括されるものと考えられる。多摩西部のみ「新型コロナウイルスの影響」に次いで「入所(居)待機者の減少」が多く、依然として施設整備の進展による影響が伺える。

③入所(居)待機者の減少理由 [問Ⅱ-11] ※問Ⅱ-10 で1を回答した施設

全 体	23 区		多摩東部		多摩西部	
所在地や近隣地域での特養ホームの増加	65	38.92%	34	61.82%	21	24.42%
所在地や近隣地域での有料老人ホームの増加	34	20.36%	21	38.18%	10	11.63%
所在地や近隣地域でのサービス付き高齢者向け住宅の増加	18	10.78%	13	23.64%	9	10.47%
所在地や近隣地域でのグループホームの増加	9	5.39%	7	12.73%	0	0.00%
小規模多機能居宅介護や24時間定期巡回・随時対応型サービスの普及	6	3.59%	6	10.91%	1	1.16%
居宅系サービスの整備進展	10	5.99%	2	3.64%	3	3.49%
所在地以外の(遠方)区市町村からの入所(居)希望者の減少	2	1.20%	8	14.55%	22	25.58%
所在地以外の自治体により確保されているベッド分への入所希望者の減少	1	0.60%	6	10.91%	7	8.14%
利用負担額の増加	11	6.59%	3	5.45%	7	8.14%
医療機関の療養病床および地域包括ケア病棟の整備	5	2.99%	0	0.00%	5	5.81%
その他	6	3.59%	4	7.27%	1	1.16%

●23区と多摩東部地域では、待機者減少理由として「所在地や近隣地域での特養ホームの増加」が最も多く、次に「所在地や近隣地域での有料老人ホームの増加」が多かった。多摩西部のみ「所在地以外の(遠方)区市町村からの入所(居)希望者の減少」が最も多く、23区を中心に施設整備が進展していることが背景にあると考えられる。

④-1 入所(居)に至るまでの期間が延びた理由 [問Ⅱ-3] ※問Ⅱ-10 で2を回答した施設

	※複数回答	回答数	%
全 体		168	—
待機者が減少した		60	35.7
家族(代理人)との調整に時間がかかる		130	77.4
入院などにより入所(居)の順番の変更が増えた		41	24.4
入所(居)元(老健・GHなど)による入所(居)調整が増えた		73	43.5
施設内の居室調整に時間がかかった		24	14.3
生活相談員の業務量増加により対応が遅れた		61	36.3
その他		20	11.9

●「家族(代理人)との調整に時間がかかる」が77.4%と最も多く、入所(居)日の調整が必要以上に時間を要していることが分かる。また、「入所(居)元(老健・GHなど)による入所(居)調整が増えた」も43.5%となっており、入所(居)には一定の時間を要している結果となった。

④-2 退所(居)から新規入所(居)者の契約迄の平均日数 [問Ⅱ-16]

	平成30年度		令和元年度	
	回答数	平均	回答数	平均
全体	341	27.44	349	28.59
23区	184	27.60	190	28.60
多摩東部	85	25.76	87	26.37
多摩西部	69	29.84	69	32.12
島しょ	3	9.67	3	10.67

⑤介護職員・看護職員不足の理由は何ですか [Ⅱ-13] ※問Ⅱ-10で3を回答した施設

	※複数回答	回答数	%
全 体		60	—
新規開設の施設が増え、職員の取り合いが起きた		25	41.7
募集をかけても人が来ず、新規採用ができなかった		55	91.7
採用しても定着せず、退職者が多く出た		37	61.7
その他		3	5.0

⑥介護職員・看護職員の不足による入所(居)の受入等への影響[Ⅱ-14]

※問Ⅱ-10で3を回答した施設

	※複数回答	回答数	%
全 体		59	—
ユニットやフロアの一部を閉鎖した		12	20.3
介護職員の人員不足により入所(居)案内を控えた		31	52.5
看護職員の人員不足により入所(居)案内を控えた		7	11.9
特に影響は出ていない		13	22.0
その他		10	16.9

●介護職員、看護職員の人員不足により入所(居)案内を控えている施設が64.4%に及んでいる。

⑦新型コロナウイルスの影響による理由 [Ⅱ-15] ※問Ⅱ-10で5を回答した施設

	※複数回答	回答数	%
全 体		182	—
新規入所(居)を中止した		95	52.2
申込者の事前情報が確認できず入所(居)手続きが出来なかった		101	55.5
施設内で新型コロナウイルス感染症が発症した		6	3.3
その他		56	30.8

⑧平成30年度、令和元年度に新規入所した方で、入所(居)時に要介護2以下だった方について、特例入所(居)適用の要件に該当する人数[Ⅱ-20・21]

	30年度				令和元年度			
	[1]	[2]	[3]	[4]	[1]	[2]	[3]	[4]
全体	69	23	76	3	63	19	70	3
23区	33	7	46	2	38	11	37	1
多摩東部	13	10	11	0	7	6	10	2
多摩西部	23	6	17	1	18	2	20	0
島しょ	0	0	2	0	0	0	3	0

- [1] 認知症の周辺症状が重度にて在宅生活が困難
- [2] 高齢者虐待が認められ在宅生活が困難
- [3] 一人暮らし又は高齢者世帯のみで在宅生活が困難
- [4] 精神疾患による症状が重度にて在宅生活が困難

⑨令和元年度に要介護2以下で新規入所(居)した方で、入所(居)の際に自治体と連携して緊急入所となった人数[Ⅱ-22]

	回答数	人数
全体	320	27
23区	169	10
多摩東部	80	6
多摩西部	68	11
島しょ	3	0

⑩令和元年度に新規入所(居)した方で、入所(居)後の認定更新で要介護2以下になった方の人数[Ⅱ-23]

	回答数	人数
全体	345	171
23区	183	77
多摩東部	87	53
多摩西部	72	41
島しょ	3	0

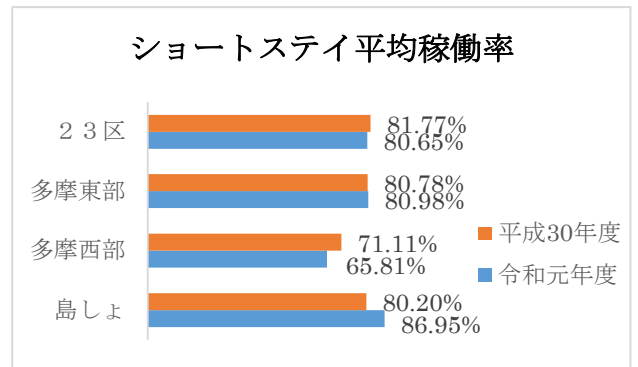
⑪入所(居)後の認定更新で要介護2以下になった方について、下記の項目に該当する人[Ⅱ-24]

	[1]	[2]	[3]	[4]	
全体	130	37	17	39	[1] 特例入所手続きをして引き続き入所(居)している方
23区	54	29	4	8	[2] 区分変更申請又は不服申立てをした方
多摩東部	40	4	1	5	[3] 退所した方
多摩西部	36	4	12	26	[4] いずれにも該当しない方
島しょ	0	0	0	0	

(4) 施設運営の状況 [ショートステイ]

①専用ベッドのショートステイ稼働率 [問Ⅰ-9]

	平成30年度		令和元年度	
	回答数	平均	回答数	平均
全体	277	79.62%	283	78.20%
23区	156	81.77%	160	80.65%
多摩東部	68	80.78%	69	80.98%
多摩西部	49	71.11%	50	65.81%
島しょ	4	80.20%	4	86.95%



●23区と多摩西部の稼働率は低下しており、多摩東部と島しょの稼働率は改善している。

②ショートステイの稼働率が低下した理由 [問Ⅱ-25]

※複数回答		回答数	%
全 体		283	100.0
1	他在宅サービスの利用が増えた	45	15.9
2	利用者が施設に入所(居)した	142	50.2
3	利用控えによる減少があった	121	42.8
4	新型コロナウイルスの影響	221	78.1
5	その他	47	16.6

●ショートステイ稼働率低下の大きな要因として、「新型コロナウイルスの影響」が最も多く、在宅サービスはデイサービスなども含め大きく影響が出ていると考えられる。

③開設以来、ショートステイの定員を特養の定員に転換しましたか [Ⅱ-26]

	令和元年度		参考:平成30年度調査	
	回答数	%	回答数	%
全体	350	100.0	345	100.0
転換したことはない	282	80.6	290	84.06
転換した	47	13.4	36	10.43
調整中	2	0.6	3	0.87
検討中	19	5.4	16	4.64

●特養への「転換をした」、「調整中」、「検討中」を合わせると19.4%となり、前回調査(15.94%)よりも3.46%増加している。

④開設以来、ショートステイの定員を特養の定員に転換した数 [Ⅱ-27]

	転換床			転換ユニット		
	回答数	合計	平均	回答数	合計	平均
全体	46	293	6.37	4	5	1.25
23区	28	182	6.5	3	4	1.33
多摩東部	13	81	6.23	0	0	0
多摩西部	4	26	6.5	1	1	1
島しょ	1	4	4	0	0	0

4 考 察

調査の視点① 待機者減少の実態把握と要因、対策

- 「待機者減少傾向の理由」として、23区及び多摩東部で「所在地や近隣地域での特養ホームの増加」が最も多く、次に「所在地や近隣地域での有料老人ホームの増加」、「所在地や近隣地域でのサービス付き高齢者住宅の増加」が多かった。多摩西部のみ「所在地外の（遠方）区市町村からの入所希望者の減少」が最も多く、次に「所在地や近隣地域での特養ホームの増加」が多かった。
23区で施設整備が加速することで多摩西部の待機者減少が一層深刻化していることがうかがえる。
- 待機者の中で「入所（居）に至らない理由」として、「医療依存度の高い方」が93.7%と最も多く、各施設において「医療依存度の高い方」や「精神疾患のある方」が入所（居）に至らない背景には人材確保が出来ていない為、受け入れられないといった実態があると考えられる。今回の調査でも稼働率の低下理由として、「介護職員・看護職員の不足」と回答した施設では、「募集をかけても新規採用ができなかった」施設が91.7%となっているため、人材確保支援を進めることで、より多くの入所（居）待機者が入所（居）できる可能性は十分にあると考えられる。また、令和元年度の「入所（居）の案内をした際に断られた」平均人数が1施設あたり11.07名となり、回答した337施設全体では年間約3700名もの待機者が入所（居）を断っていることから、必ずしも「入所申込者=入所（居）待機者」とはならないことが明らかになった今、特養への入所（居）可能な対象者の**正確な実態把握**が必要であると考えられる。

調査の視点② 待機者減少と特養稼働率の低下の相関性

- 稼働率の低下理由として「入退院者の増加」が60.7%と最も多く、次いで「新型コロナウイルスの影響」が48.7%、「入所（居）に至るまでの期間の延び」が44.0%の結果となった。新型コロナウイルスの影響については、申込者の事前情報が確認できず手続きができなかったり、新規入所（居）を中止したことが理由として挙げられており、以上の理由を踏まえると「入所（居）に至るまでの期間の延び」に包括された理由であるとも考えられる。
- 回答施設では、1年間の退所者数は平成30年度に8,595名であり、特養定員総数に対し25.94%であったが、令和元年度の退所者数は8,967名となり特養定員総数に対し26.72%と増加している結果となった。また、退所（居）から新規入所（居）者の契約までの平均日数も全体で平成30年度が27.44日であったのに対し、令和元年度は28.59日と延びている。理由として「家族（代理人）との調整に時間がかかる」や「入所（居）元（老健・GHなど）による入所（居）調整が増えた」など、入所（居）日を決めるにも一定の時間を要することが稼働率の低下を招いていることが伺える。

調査の視点③ ショートステイ需要の後退の要因と対策

- 平成30年度、令和元年度による稼働率の比較では、回答のあった都内施設全体で低下しており、特に多摩西部は5.3%減少し、65.81%と都内において最も低い値となった。
- 稼働率低下の主な理由として「新型コロナウイルスの影響」が78.1%と最も多いが、「施設入所（居）」が50.2%、「利用控えによる減少」も42.8%となっており、例年の厳しい状況に加え、対象期間は短いものの、新型コロナウイルスの影響が加わり、より厳しい状況であることが伺える。
- ショートステイ需要の後退を踏まえ、特養床への転換に踏み切る施設が増加している。今回の調査でも293床がショートステイ床から特養床へ転換したことが明らかとなった。

5 自由記述の分析

(1) 自由記述分析の目的

自由記述を分析する目的は、選択肢式回答では把握できなかった意見や傾向を明らかにすることである。「令和2年度特養入所待機者に関する実態調査」について、生活相談員の考えを率直に記述してもらい、そこから課題を抽出し、今後に必要な施策を検討する。具体的には、アンケートの自由記述データを計量的な分析方法を用いて検討する。自由記述データを分析する意義については、樋口(2014)が質問紙調査の持つ完全な選択肢を提示することが難しいという困難を補う点にあることを指摘している。

(2) 分析の方法

分析には立命館大学の樋口耕一(2014)が開発したテキストマイニング^{※1}用のフリーソフトである「KH Corder」を用いた。文書形式のデータを計量的に分析する必要があると考えたからである。このソフトは大量の文書の中から、分析対象となる抽出された言葉(以下抽出語という)の出現回数を瞬時に示すことができ、共起ネットワーク^{※2}、クラスター分析^{※3}、などの機能により、複雑なデータを分かやすく説明することができる。つまり、抽出語の出現回数、抽出語どうしの関連性などの全体像を量的に提示した上で、回答者の意見や傾向を解釈することができる。

※1 テキストマイニング : 自由記述のような文書形式のデータを定量的な方法で分析すること

※2 共起ネットワーク : 語と語のつながり(共起性・関連性)を視覚化した分析手法。円の大きさは頻度、線の太さは関連性の強さを表す。
(シードプランニング社 プレスリリース 2016. 12. 21)

※3 クラスター分析 : 対象データ間の類似度または距離に基づいて、似ているどうしをいくつかのグループに分離する手法。大きく分けると階層的クラスター分析と非階層的クラスター分析がある。
牛澤賢二(2018)「やってみよう テキスト マイニング」

(3) 倫理的配慮

特別養護老人ホームの事業所ならびに個人を特定されることのないよう個人情報保護を厳守する。

(4) 自由記述結果と考察

1) 設問 28「各施設における入所待機者の現状に対してどのように考えますか」(回答数 177)

① 頻出語

最も出現頻度が高い語は、「入所」(201 個)である。「待機」(172 個)、「施設」(154 個)、「特養」(90 個)、「多い」(86 個)、「介護」(70 個)、「増える」(64 個)、「申し込み」(56 個)、「減少」(51 個)、「入居」(50 個)と続く。

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
入所	201	減る	19	把握	12
待機	172	生活	19	印象	11
施設	154	継続	17	確保	11
特養	90	時間	17	近隣	11
多い	86	案内	16	場合	11
介護	70	区内	16	新規	11
増える	64	今後	16	サービス	10
申し込み	56	受け入れ	16	ニーズ	10
減少	51	要介護 3	16	以前	10
入居	50	状態	15	現在	10
状況	48	職員	15	今	10
申込	44	確認	14	在宅	10
医療	38	期間	14	市内	10
高い	35	行う	14	情報	10
希望	33	高齢	14	申込む	10
現状	31	困難	14	進める	10
少ない	31	申請	14	特に	10
増加	29	調整	14	年々	10
ケース	27	傾向	13	有料	10
対応	27	自治体	13	リスト	9
利用	27	申込む	13	見る	9
必要	26	退る	13	残る	9
名簿	24	ケア	12	支援	9
地域	22	加算	12	取り合い	9
難しい	22	可能	12	出来る	9
家族	21	重度	12	人	9
連絡	21	床	12	西多摩	9
管理	20	数	12	待つ	9
実際	20	精神	12	認知	9
人数	20	相談	12	本当に	9
依存	19	断る	12		

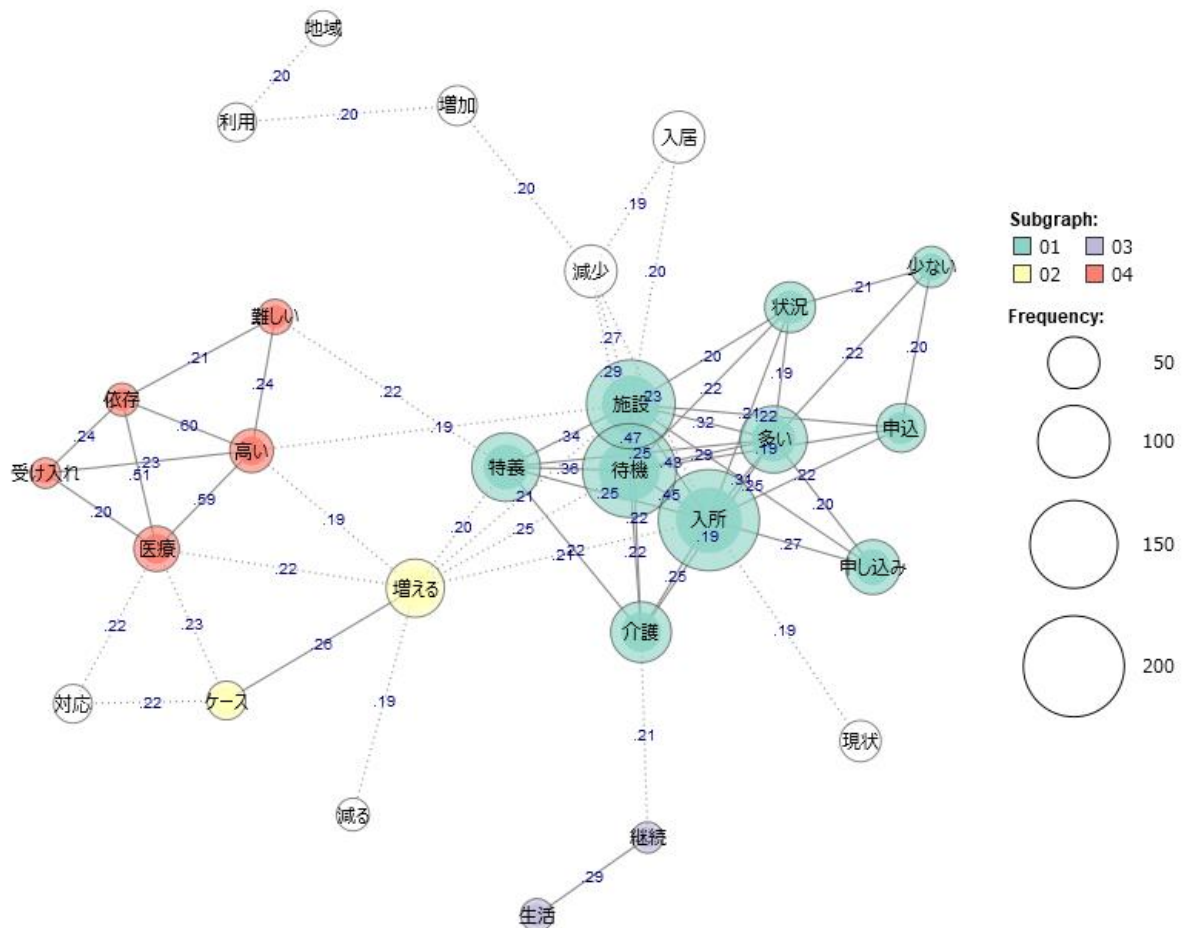


図1 共起ネットワーク

※「円が大きいほど、出現回数が多いことを表している。語と語が線で結ばれているかが共起性や関連性の有無を表し、線の太さが関連の強さとして表現されている。円の位置や近さは共起性とは無関係である」(末吉, 2019)「テキストマイニング入門」
 語と語を結ぶ線上にある数字は共起性の強弱を表す Jaccard 係数である。0 から 1 までの値を取り、関連性が強いほど 1 に近づく (樋口 2013)「JH coder 公式掲示板」。

- 0.1 は「関連がある」
- 0.2 は「強い関連がある」
- 0.3 は「とても強い関連がある」

② 共起ネットワークによる考察

「共起ネットワーク 図1」から語と語のつながり（共起性・関連性）を視覚的に把握する。文章中に多く出てくる単語の出現パターンが似たものを線でつないでいるため視覚的に理解しやすい。自由回答から抽出された異なる語数は 1,385 である。表示される抽出語があまり多くなりすぎると結びつきが散漫になるため描画される共起ネットワーク

の表示に用いる語を上位 60 個に絞り、抽出語の最少出現数を 15 回以上に設定した。その結果、共起ネットワークから、次の 4 つのテーマがあることが明瞭に捉えられた。

- ① 入所に関するテーマ
- ② 待機者に関するテーマ
- ③ 特養に関するテーマ
- ④ 医療に関するテーマ

線上に示されている共起性の強弱を表す値である Jaccard 係数は、すべて 0.16 以上であり、「関連がある」ことが示された。さらに、テーマそれぞれにおいても「関連がある」を示す係数でつながっていることが分かる。

2) 4 つのテーマごとの考察

抽出語を中心にして前後の文が示された集計表を用いてテーマごとに考察した。抽出語がどのような文脈で用いられているかを把握しないと本意が分からないからである。巻末、「キーワードの出現例（抜粋）」を参照。

① 入所に関するテーマ

「入所」は、「待機」（123 個）、「減少（減る含む）」（52 個）、「申し込み」（47 個）などの語と一緒に出現しており、待機者が減少している状況が示されている。他方、「医療依存」、「対応」、「ニーズ」などの語が出現記述と一緒に出現しており、医療依存度が高い入所（居）者や入所（居）希望者に増加に対し、対応を求められる現場では人材不足も重なり、職員の負担が重くなっている現状があると考えられる。

② 待機者に関するテーマ

「待機」は、「減少」（42 個）、「少ない」（23 個）、「減る」（17 個）などの語と一緒に出現している。既述①と同様に待機者が減少している状況が明らかとなっている。一方、「多い」（52 個）、「増加」（22 個）などの語とも一緒に出現しており、入所（居）申込者には「医療依存の高い方」、「入所に至らないケース」、「声掛けしても断られる」など、待機者が減少している反面、困難ケースが増加している。実際には特養への入所が困難な人が名簿に残っていることや、いずれ入所（居）を希望する方が早期に申込をし、施設から案内をしても断る「お守りの申込」の実態を裏付ける結果が明らかとなった。つまり、「入所申込者≠入所待機者」とはならず、待機者名簿は実際の実待機者ではない恐れがある。

③ 特養に関するテーマ

「特養」は、「待機」（76 個）、「減少（減る、少ない含む）」（39 個）、「医療（ニーズ含む）」（23 個）などの語と一緒に出現している。待機者が減少している状況と医療依存が高い待機者がいることが明らかとなった。また、「増える」（27 個）、「取り合い」（8 個）などの語とも一緒に出現しており、今回の実態調査の選択肢式回答 [問 2-10] では、待機者

が減少傾向にある場合の理由として、23区及び多摩東部では「所在地や近隣地域での特養ホームの増加」が最も多く、多摩西部では「所在地以外の（遠方）市区町村からの入所者の減少」が25.58%と他地域よりも多い結果であった。各自治体の施設整備が進み、待機者の取り合いになっていると考えられる。自由記述にも「介護度4、5の待機者が少ない」、「介護4、5で加算をとっている施設が多い中、介護3以下の入所は敬遠する」などの記述があった。施設によっては、加算取得などの理由から要介護3の待機者は敬遠されている傾向が見られる。また、入所（居）後の更新に於いて介護度が下がる可能性なども背景にあるのではないかと考えられる。本来、要介護3以上が入所（居）対象となっているにも関わらず、要介護3の方々は名簿に残り続ける状態であるならば、加算の範囲を要介護3までにするか、基本報酬に含めるなどの見直しが必要であると考えられる。

④ 医療に関するテーマ

「医療」は、「依存度」（19個）、「ニーズ」（8個）、「高い」（32個）、「多い」（62個）などの語と一緒に出現している。一方、「待機者」（94個）、「申し込み」（40個）などの語とも一緒に出現している。つまり、「医療依存度」、「医療ニーズ」が高い待機者が増えていることが示されている。具体的に必要な医療処置は、「たん吸引」、「胃ろう」、「人工肛門」、「バルーン」、「点滴」、「経鼻栄養」、「インスリン注射」、「透析」、「尿カテーテル」などである。記述にも「医療依存度が高く、受け入れできない」、「医療依存度が高いために特養では対応が難しい」などがあつた。「困難」（12個）は「受け入れ」（11個）、「精神」（10個）、「医療ニーズ」（6個）、「医療依存」（19個）などと一緒に出現している。「医療依存度の高い方たちばかりが名簿に残っている状況」「認知症には対応できるが精神面へのアプローチは正直難しく、他利用者とトラブルになるリスクが高いため積極的に受け入れられない」などの意見もあり、多くの特養において医療ニーズが高いため待機者の受け入れが困難になっている状況がうかがわれる。その結果、行き場がないまま待機者名簿に残り続けている人が少なくないのではないかと考えられる。

設問 29「新型コロナウイルスの影響による施設の稼働率や待機者の現状に対してどのように考えていますか」（回答数 193）

① 頻出語

最も出現頻度が高い語は「入所」（231 個）である。「施設」（153 個）、「感染」（119 個）、「稼働率」（92 個）、「利用」（82 個）、「影響」（63 個）、「状況」（61 個）、「考える」（55 個）、「家族」（54 個）、「思う」（53 個）、「新型コロナ」（53 個）と続く

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
入所	231	必要	28	職員	16
施設	153	対策	27	申込	16
感染	119	在宅	25	稼働	15
稼働率	92	感じる	24	空	15
利用	82	調整	24	慎重	15
影響	63	難しい	23	面談	15
状況	61	控える	22	予防	15
考える	55	今後	22	ウイルス	14
家族	54	出来る	22	サービス	14
思う	53	制限	22	案内	14
新型コロナ	53	見学	21	希望	14
対応	52	中止	21	健康	14
入居	51	老健	21	進める	14
ウイルス	47	ケース	20	本人	14
待機	45	経営	20	ショート	13
コロナ	44	受け入れる	19	スムーズ	13
新規	44	コロナウイルス	18	厳しい	13
面会	42	時間	18	減少	13
ショートステイ	40	時間	18	情報	13
面接	38	状態	18	調査	13
病院	37	生活	18	確認	12
現状	36	前	18	緊急	12
低下	36	増える	18	行える	12
特養	36	検査	17	少ない	12
現在	33	今	17	大きい	12
行う	33	事前	17	得る	12
受け入れ	33	不安	17	入院	12
多い	32	訪問	17		
リスク	31	可能	16		
場合	30	介護	16		
出る	28	月	16		

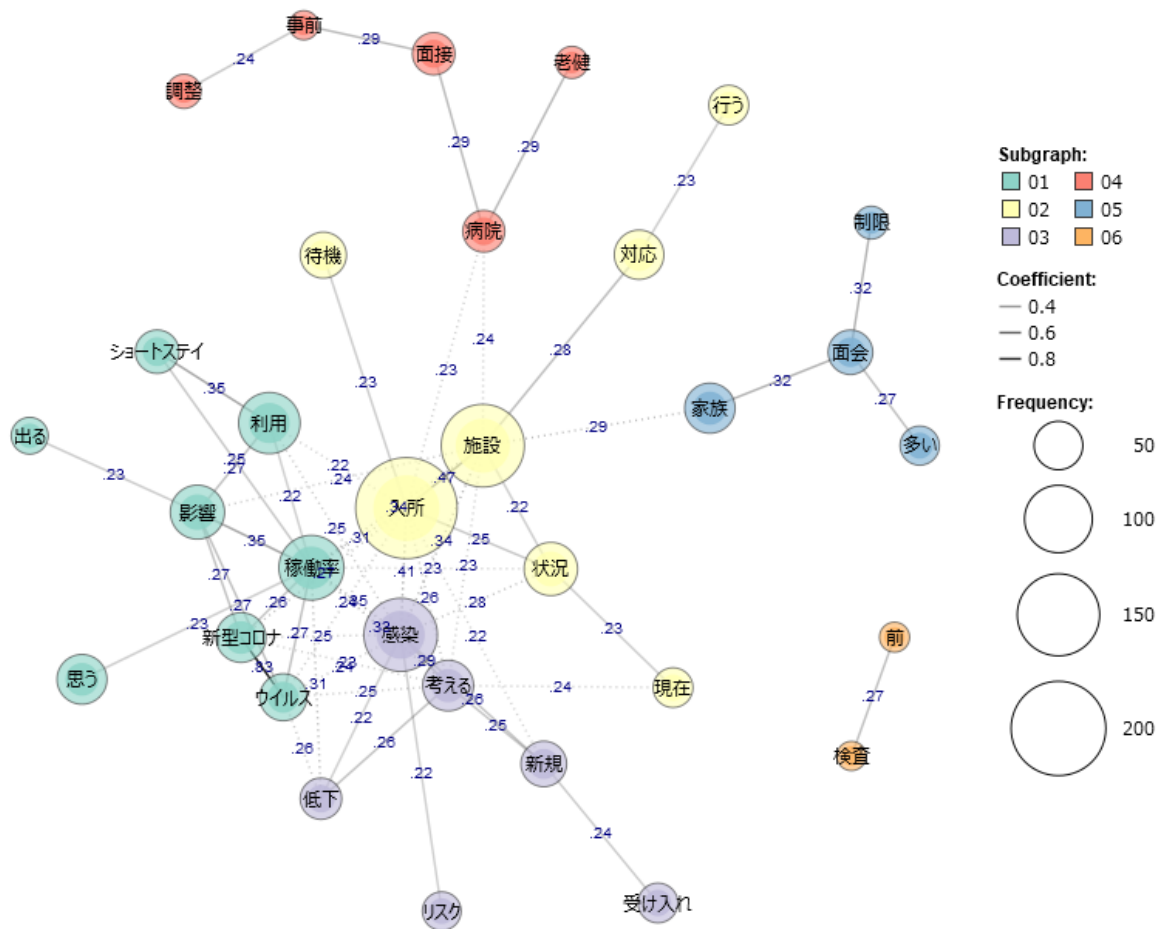


図2 共起ネットワーク

- 0.1 は「関連がある」
- 0.2 は「強い関連がある」
- 0.3 は「とても強い関連がある」

② 共起ネットワークによる考察

自由記述の回答から抽出された異なる語数は1,448である。表示される抽出語があまり多くなりすぎると結びつきが散漫になるため描画される共起ネットワークの表示に用いる語を上位60個に絞り、抽出語の最少出現数を15回以上に設定した。その結果、共起ネットワークから、次の3つのテーマがあることが明瞭に捉えられた。

- ① 入所に関するテーマ
- ② 待機者に関するテーマ
- ③ ショートステイに関するテーマ

線上に示されている共起性の強弱を表す値である Jaccard 係数は、すべて0.16以上であり、「関連がある」ことが示された。さらに、テーマそれぞれにおいても「関連がある」を示す係数でつながっていることが分かる。

2) 3つのテーマごとの考察

抽出語を中心にして前後の文が示された集計表を用いてテーマごとに考察した。抽出語がどのような文脈で用いられているかを把握しないと本意が分からないからである。巻末、「キーワードの出現例（抜粋）」を参照。

① 入所に関するテーマ

「入所」は、「面接」（38個）、「調整」（23個）、「待機」（40個）などの語と一緒に出現しており、「病院や老健など面会制限をしているため、申込者本人と直接面接が出来ない状況」、「感染症を恐れて訪問を断る為、面接が出来ない現状」などの記述が見られた。医療機関や各施設などで面会を禁止している状況だけでなく、在宅でも申込者の身体状況や認知症状などの事前情報収集が思うように進まないために、入所（居）判定委員会等にかげられないといった状況が発生している。一方、法人、施設の方針により入所（居）案内を停止している施設も一定程度あり、入所（居）を早急に必要とする申込者に案内が思うようにできないジレンマに困惑している施設も多くあることが明らかとなった。

② 待機者に関するテーマ

「待機者」は、「施設」（39個）、「入所」（68個）、「稼働率」（26個）、「新型コロナ」（22個）、「影響」（20個）などの語と一緒に出現している。

「コロナ禍での入所を躊躇され断るケースもみられる」、「23区内に在住の待機者への声掛けはより慎重に判断をしている」などの記述が見られた。新型コロナウイルス感染症が影響し、案内をする側、される側の両方で、入所（居）に躊躇してしまうなど、不安を抱えながら対応をされている実態であることが明らかとなった。

③ ショートステイに関するテーマ

「ショートステイ」は、「低下」（14個）、「控える」（9個）、「リスク」（9個）などの語と一緒に出現している。「利用を控えている方々が多い」、「ショートステイの稼働率の低下は全体の収入に大きな影響を及ぼしている」などの記述も見られた。今回の実態調査の選択肢式回答〔問I-8〕では、89%の施設がショートステイを併設しており、利用者による利用控えや事業所側の受入停止により稼働率が低下し経営状況に影響している実態が明らかとなった。

6 自由記述全体の考察

(1) 待機者の実態把握について

自由記述全体を通して、入所（居）待機者が減少している一方で、「医療依存度が高い」ため待機者の受け入れが困難になっている状況が確認された。その結果、行き場がないまま待機者名簿に残り続けている人が少なくない。更に、「お守りの申込」が増加していることにより、入所（居）案内をしても断られている状況が確認された。各施設の待機者名簿に記された待機者数と実際の入所（居）希望者数がかい離している要因がこの点にあると考えられる。居住地以外の区市町村への入所（居）申込もあることから、都内全体で統一した待機者の実態把握方法を検討する必要があると考える。

(2) 施設整備の進展と人材確保支援対策について

自由記述全体を通して、施設整備の進展により入所（居）待機者が減少しているといった意見が多い。現場の実感としては、地域に特養をはじめとする施設が増加したため「待機者が減少している」という意見は少なくない。「自治体は”申込者＝待機者”と認識しているが、申込者≠実待機者ではない」、「施設整備に当たっては実待機者数をしっかり調査・把握して進めるべき」などの意見の他、「特養が近年で増えこれまでに多くの待機者に入所（居）の機会が進んだ」などの意見もあり、施設整備についてマイナスな意見ばかりではない。しかしながら、入所（居）を希望する待機者には医療依存度の高い方も増加傾向にあることから、各自治体における計画策定については、次のプロセスを踏まえ進められるよう期待したい。

- ①施設整備計画は現状及び将来の実待機者数の推計に基づき計画を立てる。また、計画期間における退所（居）者数の推移を考慮した実待機者数の推計とする。
- ②施設整備計画には必ず人材確保支援対策に対する計画を盛り込む。

(3) ショートステイについて

本調査では都内のショートステイのベッド数3,303に対して利用率は平均で78.2%となっている。令和元年度の調査であるため、新型コロナウイルスの影響は少ないものと想定していたが、実際には特養に併設するショートステイ事業は、入所（居）とは違い、利用者が入れ替わる為、感染に対するリスクが非常に高く受け入れ施設も慎重にならざるを得ない状況がある。「新型コロナウイルスの蔓延状況によってはお断りするケースも出てくる」、「感染対策を行いながら、受け入れ時の負担が現場に増えている」など回答があった。

ショートステイ事業は感染症の影響だけでなく、経営環境は年々厳しさを増している。今回の実態調査でも、特養のベッド床へ転換した施設は前年より3%増加し13.4%となっている。経営改善だけでなく、空いているショートステイのベッドを有効に利用することで、特養の待機者を減らすことにもつながる。

安易に転換を推奨するものではないが、施設側は利用満足度を高め、リピート率を高めるなどの努力は必要であるが、各自治体単位で十分な議論を重ねた上で、特養への転換もやむを得ない手段であると考えられる。